



2016年新年のご挨拶



近畿中国森林管理局長
馬場 一洋

新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。
皆様にとって素晴らしい年となることを心からお祈り申し上げます。

さて、国有林野事業におきましては、一般会計となり三年が過ぎ、公益重視の管理経営の一層の推進、森林・林業の再生に向けた貢献、地域振興への寄与という政策目標について、成果を求められるものと考えております。

近畿中国森林管理局におきましては、国民のための国有林として、地域の課題を把握し、民有林と協調して課題解決に努めております。

特に、民有林と連携した管理経営による路網整備や協調施業の推進、鳥獣被害対策、センダンに代表される早生樹の育成技術の開発などに鋭意取り組んできたところです。

当局の管理する国有林は、管内森林面積の六パーセントに過ぎませんが、二府十二県に広く分布しておりますので、特定の地域に偏ることなく、当方から積極的な提案を行い、共同施業の推進や、今後増大する主伐への対策、管内ではまだ十分に普及しているとは言えないコンテナ苗の積極的な使用などを進めてまいります。

本年も地域林業の先導役として、地域に、そして国民の皆様方に評価いただけるよう、各般の取組を進めてまいりますので、より一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様方の今年一年間のご多幸とご健康を祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

猿政山



猿ヶ城



猿ヶ馬場山



猿田原



猿掛山

ニュース

大山森林生態系保護地域 自然観察会を開催

【鳥取森林管理署】 11月7日（土）、大山森林生態系保護地域の大山国有林で、大山森林生態系保全管理協力員の案内による自然観察会を実施しました。今回は、下山キャンプ場から大神神社を経由して寂静山（じゃくじょうざん）展望台のルートを担当から4名、大山森林生態系保全管理協力員4名、県内各地からの一般参加者9名の方と一緒に散策しました。

当日は、肌寒い中でしたが天気にも恵まれ、紅葉盛りの色とりどりのブナの二次林の中を大山森林生態系保全管理協力員の方から動植物の解説を受け、いろいろな種類の落ち葉やどんぐりを拾いながらゆっくりと進み、阿弥陀堂や大神山神社などの史跡を巡った後、寂静山展望台からは、大山の紅葉や北壁が真正面に眺めることができました。



また、協力員の方々には、山の歩き方のコツや、自然を詠んだ俳句、動植物のおもしろい豆知識なども紹介していただき、参加された方々も熱心に聞き入っておられ、いろいろな質問も飛び交い活発なコミュニケーションが図られました。

今後もこのような活動を通して、大山森林生態系保護地域の自然に親しみ、学べる機会を継続していきたいと考えています。



オオクワガタの棲める森づくり 箕面市立豊川北小学校が 森林で体験学習

【箕面森林ふれあい推進センター】 箕面森林ふれあい推進センターは、NPO法人みのお山麓保全委員会と連携し、10月29日（木）、箕面国有林内「エキスポ'90みのお記念の森」及び箕面ビジターセンターにおいて、箕面市立豊川北小学校4年生児童65人を対象に、昨年に引き続き森林環境教育を行いました。

秋の紅葉シーズンの最中、晴天にも恵まれ、児童たちは午前中「エキスポ'90みのお記念の森」で「森の探検隊」を体験し、午後は大阪府の箕面ビジターセンターで、箕面に生息・生育する動物・植物等展示施設の見学、森の自然工作などを行いました。

「森の探検隊」は、学習ポイントを班単位で歩き、与えられた指令書及びヒントにより自分たちで回答を導き出す森林環境学習プログラムです。

大阪森林インストラクター会の会員、森林管理局の職員、大阪府北部農と緑の総合事務所職員が引率者として各班を受け持ちました。

児童たちは、設定された学習ポイントの中から、予め各班で決めたポイントを巡り、指令書・ヒント及び引率者のアドバイスも参考にしながら班のみんなで考え、探検ノートに観察したこと・回答などを書き込み、デジカメで撮影しながら楽しく廻って行きました。

探検では、臭いを嗅いだり、木の幹周りを測ったり、脚立に登ってクヌギの中をのぞいたり、葉っぱでお面を作ったりといろいろな体験をすることが出来、普段はあまり森林と接することが少ない児童たちにとっては貴重な体験学習となりました。

午後からは場所を箕面ビジターセンターに移し、NPO法人みのお山麓保全委員会が、施設見学、水辺の生き物調査、森の自然工作の指導を行いました。

また、森林管理局職員の指導によりフォトフレーム作りも実施し、児童たちは盛りだくさんのメニューをこなしました。



水辺の生き物調査では、箕面川の水生生物のヨコエビ、カワゲラ（幼虫）などを実際に観察することが出来ました。

自然工作、フォトフレーム作りでは、木の枝や実などをふんだんに使い、思い思いの作品を作りました。

午後は、4つのメニューを30分刻みで順次消化していったため、慌ただしかったのですが、殆どの児童たちがこの場所を訪れたのが初めてということもあり、貴重な体験となったようです。

この後、豊川北小学校では、「森の探検隊」の学習結果発表会を予定しています。各班が探検ポイントで考えたことや学んだこと、調べたことを発表してもらえるのが楽しみです。

松原国有林でボランティアによる松葉かきが行われました！

【福井森林管理署】 11月14日（土）、福井県敦賀市に所在する松原国有林において、市民や各種団体、市内の企業など約120人のボランティアによる『松葉かき』を実施しました。



松原国有林は、アカマツを主体とした海岸林で、市民の憩いの場や観光地として親しまれています。しかし、近年は広葉樹の侵入などによりアカマツが衰弱し、松くい虫による枯死が増えています。このためアカマツの生育に必要な環境を整えるため、松葉かきを市民や学生のボランティアにより継続して実施しています。

作業開始に先立ち、福井森林管理署長から、気比の松

原は敦賀市の宝であり松葉かきを継続することが大事との挨拶がありました。また樹木医の數内昭男氏から、松葉かきが必要な理由の趣旨説明があり、参加者は熊手を使い1時間程で約1tの松葉を集めました。集まった松葉は、肥料として再利用されます。メリケンカルカヤの駆除も松葉かきと合わせて行われました。



また、11月28日（土）には、敦賀気比高等学校附属中学校の1年生から3年生の生徒11名と先生1名が、松葉かきとメリケンカルカヤの除去作業を実施してくれました。

生徒達は、同じ敦賀市内にある松陵中学校の生徒たちが、メリケンカルカヤの除去作業を行ったことをニュースで知り、自分達も地域への貢献を行いたいと思い、気比の松原100年構想推進連絡協議会に申し出てくれたものです。

活動開始に先立ち、署長から活動のお礼と、松葉かきやメリケンカルカヤの除去作業などの保全活動の継続をお願いしました。作業途中か



ら、小雨が降りだすあいにくの天候にもかかわらず、生徒達は、メリケンカルカヤを根気よく一生懸命取り除いてくれました。また、最初は使い慣れない熊手にも直ぐに慣れ、手際よく松葉かきを行ってくれました。



今回、ボランティアを行ってくれた生徒達にとって松原は、小さな頃からよく遊びに来ている場所だそうで生徒達からは一様に「とても親しみを感じる場所」、「これからも大切にしていきたい場所」という声がありました。

作業終了後に、署長と森林官が行った即席の森林教室では、松原で行っている保全作業や、健全なマツ林を保つための方法、松くい虫発生メカニズムなどについて説明を行い、熱心にメモを取る生徒達の姿も見られました。

今後も、気比の松原100年構想推進連絡協議会と一体となって、より多くの一般市民の参加を得ながら、気比の松原の継続的な保全に取り組み、後世に引き継いで行こうと改めて思いました。

「青少年のための科学の祭典 2015 亀山大会」へ出展

【三重森林管理署】 11月14日（土）、三重県亀山市の亀山市青少年研修センターで「青少年のための科学の祭典 2015 亀山大会」が開催され、当署からは「木を使おう」をテーマに木工工作が体験できるブースを出展しました。



「青少年のための科学の祭典」は、平成4年度から当時の科学技術庁と科学技術振興財団の主催で全国各地で開催されてきました。

三重県では、平成11年度から県内各地で開催され、亀山市では平成16年度に初めて開催されて以来、毎年開催されてきました。イベントには、子どもたちに科学の不思議さやおもしろさを体験してほしいとの願いが込められています。

当日は、地域の学校や企業などから23のブースが出展され、物理、化学、生物、環境分野に区分された各ブースで実験、工作などを楽しみました。

当署のブースでは、木や自然素材を使う木工工作を通じて、森林のはたらきや木材への関心を持ってもらおうと、間伐材を輪切りにした円盤や製材板、マツの球果やクヌギ、コナラ、トチなど様々な木の実を準備しました。ブースを訪れた子どもたちは、これらの材料を自由に組み合わせてオリジナルの作品を作り上げていました。

ブースは、作品作りを希望する多くの子どもたちが訪れ、常に満席の状態で一時は順番待ちができるほどの盛況ぶりとなりました。



民有林直轄治山事業 完成式典を開催

【和歌山森林管理署】 11月20日（金）、平成23年紀伊半島大水害で被災した民有林直轄治山事業地「菖蒲谷地域」において、完成式典が開催され、地元三里小学校児童による植樹祭が実施されました。

式典に先立ち和歌山県西牟婁振興局長からの祝辞と来賓として和歌山森林管理署長より挨拶を行いました。

その後、この事業を担当した紀伊田辺治山事業所秋田治山技術官より、事業の説明を行いました。

この「菖蒲谷地区」は4年間の計画で平成25年度に着工しましたが、平成26年度に早期完成した工事です。

特にこの工事箇所は、「世界遺産紀伊山地の霊場と参詣道」の熊野古道が通過しており、工事中の利用者の通行や景観に配慮した工法の採用など、工夫を凝らした現場になっています。



また、被災したクスノキが再生したことから「よみがえった大楠」として、現地のシンボルにもなっています。

地元からは、「熊野古道が中心部を横切っているため、早期に復旧していただきありがとうございます。」とうれしい言葉を頂きました。

また当日は、職業体験に地元県立熊野高校2年生4名が森林管理署に来ており、現地説明の手伝いや植樹の手伝いを一緒に行いました。



大阪市立都島中学生が 森林管理局で職場体験！

【総務企画部 総務課】 11月5日（木）～6日（金）にかけて、大阪市立都島中学校2年生3名が近畿中国森林管理局に職業体験にきてくれました。

1日目の午前中は箕面森林ふれあい推進センターの指導により、箕面国有林内で下刈りの体験してもらいました。



生徒達は、下刈り鎌を見るのも初めてで、職員から「苗木

木を切ってしまうないように手前から少しづつ刈って行く」「鎌の刃を苗木に向けない」等の指導を受け、最初は慣れない様子で鎌を振っていましたが、次第に慣れてきて上手になっていました。

午後からは、同国有林内においてコンパス測量を行いました。こちらにも初めて使う機械でしたが、機械の据え方、調整ネジの動かし方、角度の読み方等を教えるとすぐに理解し、3名が交代しながら、短時間で測量を行いました。



また、鋸を使用して、切り株を切る体験をしてもらいました。切り株が古く硬くなっていたせいか、かなり苦勞して切り株を切っていました。

2日目は、森林管理局内で、箕面国有林の施業の仕方、地図の見方などの説明を受け、その後、測量の成果を製図する体験をしました。

測った成果を基に水平距離を算出して「三角スケール」を使って測った距離を確認してみました。

図面に書き入れようとすると、思ったより小さくなるので驚いた様子でした。

午後からは、「今回の職業体験学習を、広報誌に掲載する」ということで、広報主任官の指導のもと、その記事を自分たちで作成してもらいました。文章ソフトを使い、写真を挿入・レイアウトしながらの作業は、初めての事もあり苦勞しながら作成していました。黙々とパソコンに向かい、一生懸命作った学習体験の記事です。

二日間という短い期間でしたが森林管理局の業務の一部を体験してもらい、森林に親しむ機会が増え、森林の大切さを理解していただいたと思います。

都島中学校 鳴川偉仁 職業体験について

11月5日と6日の2日間、僕は近畿中国森林管理局で職業体験をさせていただくことになりました。

1日目は近畿中国森林管理局について少し教えていただいたあとに箕面にある国有林に行き実習をさせていただきました。そこには鹿がいるらしく、鹿のフンがたくさんありました。



次に下刈りをさせていただきました。下刈

り用のかまは思っていたより大きく、下刈りはとても難しく、最初は何回切ろうとしても切れませんでした。下刈りはかなりしんどく、これを1日中やるのはかなりの体力が必要だと思います。



下刈りが終わり、次はコンパス測量をさせ

ていただきました。最初に使い方の説明を聞いた時は自分にはできるかどうか不安でしたが、やってみると思っていたより簡単で楽しかったです。

コンパス測量が終わった後に木を切りました。説明は「引くときに力を入れる」だけでした。木を切るのは時間がかかり、とても疲れました。

木を切り終わり1日目は終了しました。



2日目は、1日目に行ったコンパス測量の図面の作成をパソコンを使ってしました。その後定規などを使って自分で図を書きました。時間がかかったし、すこしずれてしまい、パソコンのすごさが改めて実感することができました。

僕は、この2日間いろいろなことを学び、貴重な体験をすることができました。この経験がこれからの人生でいかすことができればいいとおもいます。

この2日間本当にありがとうございました。

平成27年度 森林・林業交流研究発表会を開催しました！

【森林整備部 技術普及課】 11月26日（木）～27日（金）、近畿中国森林管理局大会議室において、「平成27年度森林・林業交流研究発表会」を開催しました。

2日間で、延べ200名が参加し、（研）森林総合研究所森林整備センター近畿北陸整備局、奈良県森林技術センター、兵庫県立農林水産技術総合センター森林林業技術センター、新見市産業部農林課、新見市地域おこし協力隊、多賀町産業環境課、大滝森林組合、滋賀県立大学、大阪府立園芸高等学校、京都府立北桑田高等学校、京都府立林業大学校、森林管理署等から、26課題の発表が行われました。

発表課題の中から厳正なる審査の下、林道側溝の機能を長期間持続させ、維持管理に伴う作業を低減させる取り組み及び収穫調査の省力化にむけた取り組み成果の報告を行った島根森林管理署の2課題並びに箕面国有林における地域と連携した二ホンジカ個体数管理の取り組みを報告した箕面森林ふれあい推進センターの発表課題が局長賞を受賞し、全体では審査員長特別賞を含め10課題が各賞を受賞しました。

なお、特別発表として、岡山県農林水産総合センター森林研究所、奈良県森林技術センター、（研）森林総合研究所関西支所、（研）森林総合研究所林木育種センター関西育種場から、最新の研究成果について発表が行われ、研鑽・交流の場となりました。

◎ 近畿中国森林管理局長賞

- ・林道の側溝について（島根森林管理署 森山 哲弥）
- ・箕面国有林における地域と連携した二ホンジカ個体数管理について（箕面森林ふれあい推進センター 瀧岡 忠雄）
- ・収穫調査の省略化にむけてービッター・リッヒ法の精度検証ー（島根森林管理署 東 勇太）



◎（研）森林総合研究所関西支所長賞

- ・微地形及び伐採密度の違いがスギ・ヒノキの個体成長に及ぼす影響（兵庫県立農林水産技術総合センター 森林林業技術センター 伊藤 康人）

◎（研）森林総合研究所林木育種センター関西育種場長賞

- ・低植栽密度で造成されたスギ・ヒノキの標準伐期齢を超えた林分の林分構造及び材質（幹形・強度）調査結果について（広島森林管理署 堂園 理一郎・近畿中国森林管理局森林整備部 藤原 昭博）

◎（一社）日本森林技術協会理事長賞

- ・大山国有林における治山事業の新たな取り組みに向けてーINSEM 工法導入に当たっての有効性等の検証ー（鳥取森林管理署 佐々木 哲平・岩 明広）

◎（一財）日本森林林業振興会会長賞

- ・紀伊田辺地区民有林直轄治山事業における景観に配慮した工法について（和歌山森林管理署 秋田 顕二・西口 翔）



◎ 森林・林業交流研究発表会 審査委員長賞

- ・ 奈良県森林技術センターとの共同研究の取組みについてー立木乾燥手法「根元加工」の紹介ー（奈良森林管理事務所 山本 美春・嶋中 伸二・奈良県森林技術センター 寺西 康浩）
- ・ 地域の森林特性に配慮した治山事業の実施についてー木材利用の推進を目指してー（広島北部森林管理署 楠 康宜・下澤 篤志）
- ・ 低迷する木製品の復活ー木製品の開発ー（京都府立北桑田高等学校 西向 展悠・草場 基治・小田 隆一）



また、12月10日（木）に林野庁で開催された国有林野事業業務研究発表会においては、各局から3部門26課題の発表が行われました。

近畿中国森林管理局からは4課題を推薦し、うち箕面森林ふれあい推進センターが発表した課題が林野庁長官賞を受賞しました。

早生樹「コウヨウザン」の試験植栽

【森林技術・支援センター】 10月28日（木）29日（金）、岡山県新見市にある赤滝山国有林内の伐採跡地約1.7haにコウヨウザンの試験植栽を行いました。コウヨウザンは、中国南部を原産とする常緑針葉樹で、スギ・ヒノキなどに比べ成長が早く、短い期間で収穫することができ、「早生樹」と呼ばれています。

また、萌芽更新（切り株から芽が出る）が可能で、保育経費の削減も期待されています。国内では、熊本県や広島県で成林している例のほか、単木的に生長している例



がある程度のため、この度、試験植栽を行い、生長量のデータを収集するなどして、造林手法の確立に反映させていきたいと考えています。

その試験植栽に併せて28日は、コウヨウザンの植樹会を開催しました。これには、4月から新見市で活動を行っている地域おこし協力隊（林業男子等）をはじめ、新見市役所や新見市森林組合等から20名が参加しました。

「コンテナ苗」現地検討会を開催

【奈良森林管理事務所】 12月1日（火）、奈良県主催により、奈良県下市町の民有林皆伐跡地にて、林業事業者、県内森林組合、行政関係者等約70名を対象にコンテナ苗の植栽研修が実施されました。

開催にあたって奈良森林管理事務所では奈良県と連携し、森林整備課、技術普及課からの技術支援を受け、「低コスト造林への取組」の情報提供、現地での植栽指導を実施するなど、コンテナ苗の普及に向けた取組を行いました。

コンテナ苗の植栽体験では参加者に400本を植栽していただき、植栽方法の容易さを体験することで、コンテナ苗の利用により植栽効率が上がることを実感していただきました。また、一方では現地での苗木運搬の検討や、コンテナ苗の価格などの課題も出されていましたが、コンテナ苗は植付時期を選ばないことから、主伐と再造林を同時に実施する一貫作業により、トータル的に低コスト造林が図られることへの理解も深めていただくことができました。



木材価格低迷のなか、林業活性化のためには如何にコストを縮減するかが重要な鍵となっており、今後も民国連携し地域林業の活性化に向けて取組を進めていきます。



今後、利用期を迎えたスギ・ヒノキ林分の主伐が進む中、コウヨウザンがその後の更新樹種としての選択肢になることを期待しています。

森林教室 ゆうゆうくらぶ クリスマスリース作り

【島根森林管理署】 11月16日（月）、ゆうゆうくらぶの依頼により、鹿足郡津和野町「日原小学校」にて森林教室を開催し、日原小学校児童30名、ゆうゆうくらぶ関係者等が参加しました。

ゆうゆうくらぶは、地元公民館を中心に地域の小学生を対象とした環境教育や地域文化の伝承などに取り組んでいる団体で、日原森林事務所は活動のお手伝いをしています。

机の上に準備された森からの贈り物に興味津々の児童も多く、リース材料として用意したドングリについて「何の木の種類かわかるかな？」との問いかけに「クヌギの木！」「ナラの木の種類だよ！」と、子供達の声飛び交い、日頃から身近な自然に慣れ親しんでいる様子が見受けられ、森林の働きや大切さ、治山事業の説明も真剣に聞いていました。

森林からの恵みを使ったリース作り体験については、リースの材料及び作り方について見本を展示しながらの説明すると、児童は「早く作りたい」と言いたそうに目の前にずらりと並べられた森の恵みに目を輝かせました。

「それでは、今からリースを作りましょう」と声をかけると、児童達は国有林から採取したツルで編んだリースの土台に、スギ、ヒノキ等の樹木の葉、どんぐり、松ぼっくり等を飾り付けていきました。

ゆうゆうくらぶ関係者、学校職員、当署職員も児童の間に入り、子供達の豊かな発想力に感心しながら作業のお手伝いを行いました。



国有林から採取した森からの贈り物に目移りしながら、どの材料をどの位置につけようか等じっくり考えて作る児童も多く、児童ひとりひとりの思いのこもったオンリーワンのリースが

完成しました。

児童は、国有林が育んだ自然のものでいっぱいの完成したリースを大切に持って記念撮影を行い、今年のクリスマスが思い出深いものとなるようお願いをこ

めて満面の笑顔で家族の元へ帰っていきました。



お知らせ

平成 28 年度 森林（もり）のギャラリー展示団体募集要項

近畿中国森林管理局では、局庁舎 1 階の展示ギャラリー「森林（もり）のギャラリー」を農林水産業の情報発信基地と位置づけ、木材利用の拡大や中山間地域の振興に関する情報の発信に努めるとともに、多くの国民が親しむ「開かれた国有林」を目指すため、「森林（もり）のギャラリー」への展示参加を広く募集しているところです。

つきましては、平成 28 年度「森林（もり）のギャラリー」の展示を希望される団体は、下記の展示参加の項目に同意の上、申し込みをして下さい。

☞ 展示の参加者

団体のみとし、個人での募集はしておりません。（国の機関、地方公共団体、森林ボランティア団体など。企業については、認められる場合もありますのでご確認ください。）

☞ 展示の目的

国有林の PR や森林の保全・整備及び利用の促進などに資するもの等とし、営利を目的とするものは対象としない。（ただし、必要と認められ、かつ、少量・少額の販売については認められる場合があります。）

☞ 展示期間

- ・ギャラリー：原則として 2 週間～ 1 ヶ月
- ・展示ボックス：原則として 1 ヶ月

（ただし、新たな展示がない場合は、3 ヶ月まで更新できます。）

☞ 展示料

無料です。

☞ 展示ボックスの利用数

1 団体あたり、4 ボックスまでとします。（ほかの団体による展示がない場合は、未利用のボックスを限度として利用することができます。）

☞ 申し込み期限

平成 28 年 2 月 4 日（木）

☞ その他申し込み方法・様式など

所定の申込書に、団体の場合は会則及び活動内容が分かるものを添付し、局森林整備部長あて提出して下さい。

HP：<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>

☞ 問い合わせ先

近畿中国森林管理局 技術普及課 企画係
TEL：050-33160-6751

みのお森のセラピー ～春の特別企画～

癒しの森で、【こころ】と【からだ】をリフレッシュしませんか！

* 日時

3月13日 日曜日 10時～13時（予定）

※ 雨天・荒天時中止

* 場所

明治の森箕面自然休養林（国有林）勝尾寺園地

* 定員・締切

先着15名（早めにお申し込みください。）

定員になり次第、または、3月11日正午

* 参加料金

お一人：2,500円（当日にお支払いください。）

* プログラム

事前コンディション測定（血圧・ストレス度チェック）
森林安息・森林散策・森林深呼吸・森林ストレッチ
事後コンディション測定

* その他、持ち物など

お弁当、水分補給用の水、雨具、ピクニックシート（大きめのシート）など。
動きやすい服装、歩きやすい靴でご参加ください。
当日は、2か所の集合場所（当局前・阪急箕面駅前）より現地までマイクロバスで送迎します。

* 応募先・問い合わせ先

箕面森林ふれあい推進センター

HP：http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/information/h27-fureaisuisin.html

NPO法人みのお山麓保全委員会「みのお森のセラピー」

TEL・FAX：072-724-3615

HP：<http://yama-nami.net/>

【森林セラピーとは？】

科学的・医学的証拠に裏付けされた森林浴効果を言います。森林環境・地形を利用して心と身体の健康維持・増進をはかり、疾病予防・ストレス軽減を目指します。森林と触れ合うことによる主観的で内的な体験は、心と身体に大きく働きかけます。

・免疫向上 ・日常生活活気向上 ・抗癌能力向上
・血圧低下 ・緊張、不安、抑鬱低下 ・リラックス効果 などが期待されます。

森林のギャラリー（局庁舎1階）

【1月のテーマ：レクリエーションの森】

1/18～2/5 レクリエーションの森のスキー場紹介

【近畿中国森林管理局 保全課】

1/18～2/5 森林環境教育（森林ESD）の活動紹介

【箕面森林ふれあいセンター】

【2月のテーマ：】

近畿中国森林管理局の取組

2/8～2/29

近畿中国森林管理局各署の取組紹介

【近畿中国森林管理局】

花 草 木

今月の花草木は「ロウバイ（蠟梅）」です。

ロウバイは、ロウバイ属に属する、中国原産の落葉低木です。

17世紀頃、唐の国（中国）から日本にきたこともあって、唐梅（カラウメ）とも呼ばれています。

ロウバイという名前の由来は、蠟細工（ろうぎいく）のような、梅に似た花からロウバイ（蠟梅）になったといわれています。

開花の時期は、12月下旬から3月中旬頃で、とても良い香りがしますが、種子などに毒を含む有毒植物です。

ソシンロウバイ（素心蠟梅）、マンゲツロウバイ（満月蠟梅）、トウロウバイ（唐蠟梅）などの栽培品種があり、よく栽培されているのは、ソシンロウバイで花全体が黄色です。

日本においてはロウバイは晩冬（小寒〔1月6日頃〕から立春の前日〔2月3日頃〕までの間）の季語とされています。

ロウバイの花言葉は、「ゆかしさ」「慈しみ」「先導」「先見」です。

花言葉の「ゆかしさ」「慈しみ」は、まだ花の少ない冬期に、そっと黄色い花を咲かせるロウバイのひかえめで奥ゆかしい姿にちなむともいわれます。

シリーズ『国有林 最前線!』

石川森林管理署

首席森林官 (大聖寺・小松担当区) 定塚大三



安宅林国有林「安宅関」



上空から見た加賀海岸国有林

近年、これらの海岸林においては、松くい虫被害が問題となっており、その機能を維持増進させていくためには、この対策が重要となっています。このため、被害にあつて枯れた松を伐倒して細かく破砕したり、薬剤によるくん蒸処理を行うとともに、立木への薬剤散布を行い、松くい虫被害



山の出会い「ニホンカモシカ」

だところ、時々山で声を聞いたことがあるのですが、ぼったりその主に出くわしました。暫く二人ともにらめっこしてましたが、もういいかげん飽きたのかさっさと林の中に消えていきました。山では雄大な景色が見られる楽しさもありますが、色んな出会いがあるのも森林官の仕事の面白さに花を添えています。

私が勤務する石川森林管理署小松森林事務所は、石川県西南部に広がる加賀平野の中央に位置する小松市にあります。

市内には、小松空港があり北陸の空の玄関となっています。また、日本海側の防衛の要となっている航空自衛隊小松基地があり、毎年9月開催される航空祭には多くの観光客が訪れます。

当事務所は、大聖寺担当区及び小松担当区(3市1町)を管轄しており、加賀市と小松市に所在する国有林野約5千8百haを管理しています。

管内の国有林野を大別すると、日本海に面した海岸林と福井県との県境に位置する団地に分かれます。

海岸林では、クロマツを中心とした森林が広がり、防風保安林として民家や農地を強風や潮害から守っています。

海岸林である安宅林国有林は、勸進帳で有名な「安宅の関」に隣接しており、風景林に指定され、人々に憩いの場等としても利用されています。

また、加賀海岸国有林は、約4kmの海岸砂丘に沿って松林が広がっており、日本の代表的な風景である白砂青松100選にも選ばれ、自然休養林として散策の場などに利用されています。

県境山間奥地の国有林野では、間伐を実施することにより暗くなった林の中を明るくして健全な林の育成に努めています。また、伐採した木は山で丸太にしてからトラックで木材市場へ運び、地域の有効な木材資源として利用されています。

さて、この森林整備事業の監督員として山に足を運ぶと、時々山で声を聞いたことがあるのですが、ぼったりその主に出くわしました。暫く二人ともにらめっこしてましたが、もういいかげん飽きたのかさっさと林の中に消えていきました。山では雄大な景色が見られる楽しさもありますが、色んな出会いがあるのも森林官の仕事の面白さに花を添えています。



安宅林国有林

「市・地元との松くい虫被害対策連絡会議」



松くい虫防除「薬剤散布」

よみがえれ山口の銘木「滑マツ」 山口森林管理事務所

山口県の県木はアカマツです。昭和41年に公募によって選ばれたものですが、その前年に皇居新宮殿「松の間」の内装材として山口県産の「滑マツ」が使われたというニュースが話題になっており、このことがきっかけになったのかもしれません。

滑マツは山口市徳地の滑山国有林に生育する銘木アカマツの通称です。かつては数多く生立し、昭和40年頃には年間約500m3が木材として利用されていました。しかし近年では台風や松くい虫の被害もあり滑マツの数は激減しています。

平成26年3月、山口森林管理事務所の呼びかけにより滑マツの保存と再生を目指した「滑マツ保存会」が設立されました。樹木医や森林ボランティアグループ、山口県の職員等からなるメンバーで現地確認や検討会を開き、これからの保全対策等について熱い議論が交わされています。

山口森林管理事務所では滑マツ保存会から意見をいただきながら、松くい虫被害防止のための薬剤の樹幹注入、新たな稚樹育成のための下草刈りなどを行っています。

下草刈りの時には芽生えたばかりのアカマツが草に覆われています。誤って雑草と一緒に切ってしまう恐れがあるので、事前に目印をつける作業も滑マツ保存会の皆様等の協力をいただきながら行っています。

平成27年4月には生育地周辺の林道脇から約200株のアカマツ稚樹を採取し、育成を行っています。今後これらの稚樹を生育適地に植えることで滑マツ再生の一助となることが期待されます。



滑山国有林の滑マツ
通直で枝下が高いなどの特徴があります。



登山道沿いの滑マツ
その大きさと美しさに感動!